

# 分会情報

J R 東海労大阪仕業検査車両所分会

No. 2 2 2010. 11. 20

発行責任者 柿本 克彦

編集責任者 教 宣 部

## 姑息な点数稼ぎは許さない！！

皆さん！どう思われますか？

先日、仕業検査車両所において、「スリ板交換をおこない、SEKの社員がスリ板を補充するため、一旦点検通路から降り、再度点検通路にスリ板を持って上がる際に命鍵を決着せずに行って行こうとしたので、管理者はその場にいた仕業の社員とSEKの社員に対して注意を喚起した。」(助役いわく)ということがありました。

しかしこの社員の行為のどこが悪いのでしょうか？安全扉を閉めなかったことが悪いのでしょうか？作業上、SEKの社員が再度スリ板を持って上がるのがわかっているのに閉めないのはあたり前の行為です。また管理者に注意喚起を受けた際に命鍵をSEKの社員に渡しているのです。どこに問題があるのでしょうか。

しかし会社は、この程度の事象はこの間「注意喚起」して終わる程度の話ですが、今回はここで終わらず社員に対して勤務時間の変更をしてまでも呼び出し、時系列等報告書を強要してきているのです。

### 姑息な助役の点数稼ぎ？が見え隠れ！

管理者の私利私欲のために社員を利用する事は絶対許される事ではありません。そもそも、その場で注意喚起され即座に対応している話です。ことさら事象を大きくする必要は無い話なのです。問題を大きくしなくてはならない理由が他にあるのではないだろうか？と疑いたくなるのは当然ではないでしょうか。また、所内で起きた小さな出来事も、その出来事で発生する「火の粉」を自らが被らないために時系列等報告書を書かせることによって確定させ責任を転嫁しているのです。責任だけを追及する体質、そして点数稼ぎを常に考えているからこそこのような事態が発生するのではないのでしょうか。

先日のB11編成ベロー付きバネの問題もそうであるように、社員に対しては「訓告」「厳重注意」なる処分を出しておきながら、会社が行なった訓練ならざる訓練の事は棚に上げ社員にすべての責任を押しつけることで問題を乗り切ろうとしているのが今の会社体質・姿勢なのです。

**会社は社員に責任転嫁する体質を改め！**

**そして自らの非を認めるべきだ！**